

学校マネジメント能力をはぐくむ
アクションリサーチ型スクールリーダー研修

V シンポジウム報告
～ミドルリーダー育成～

1. 趣旨説明

今日学校教育の課題に取り組もうとすると、留意しておかなければならないことがあるように思われる。それは学校のいずれの課題であれ、それに取り組もうとすると、二重の課題に取り組まざるを得ないということである。たとえば、本研究のように学校課題に学校全体で取り組むためにはミドルリーダーがその鍵を握ると考え、ミドルリーダーという学校管理職の育成という課題に取り組もうとすると、学校におけるミドルリーダーの指導的力をどのように育成するかだけでは済まないからである。その場合、学校はこれまで連続的に継続してきた教師やその教育活動の枠内で営まれている。しかし、その学校に生じている諸課題はその学校単独の組織課題であるとは限らない。今日のわが国の状況は、「グローバル化」という一言で形容されることが多いが、これは何かを語ろうとする際の単なる枕詞ではない。現実には学校を取り巻く状況は激しく変化している。昨日まで当たり前だったことがそうでなくなるかもしれない。いやそうなってしまっているのが実際のところである。そういう状況に今学校は置かれているのである。それに気づかないことは迂闊でしかない。そのような中で、ミドルリーダーの役割や指導力の育成を問うことは、学校に非連続を持ち込むこととならざるを得ない。それを持ち込むのは大学の役割だとわれわれは認識している。われわれ大学人、この教職大学院の教員の役割は、大学の教師教育の教育研究活動や学校の教育活動に、この非連続を持ち込み、院生や学校の教員の内にいる連続に非連続をつなげることである。そして、小さな非連続を改善やイノベーションとして学校の連続の中に生み出し、あるいは組み込み大きな新たな連続にして具体化することであると、われわれは考えている。

そう考えて、今回のシンポジウムは、「総合的教師力育成」という大きな課題にミドルリーダー育成という小さな課題を設定して学校、教育委員会そして大学の三者が協働して取り組んできた、その成果を本日このシンポジウムにおいて公開し、さらに新たな改善を研究自体に持ち込みたいと考え、企画した。

まず、基調講演は「これからの教職大学院の在り方」をテーマに福井大学教職大学院教授松木健一先生にお願いして、わが国全体を取り巻く状況とこれからの学校教育の向かう方向をお示し頂きたいと考えている。それを踏まえて、「学校・地域の教育改革の中核を担うミドルリーダーの在り方」をテーマに、学校から本大学院現職教員院生で、新見市立塩城小学校教諭 白根雅弘先生と同校新人教員川上裕加先生、県教育委員会から竹田義宣高校教育課長、そして大学から高瀬 淳教授と宮本浩治准教授にお願いして各立場からこの課題について取組やお考えをお話し頂く。その上で指定討論者県教育委員会中村明雄義務教育課長、市教育委員会から天野和弘審議監を皮切りに全体で議論を深めたいと計画している。

岡山大学教職大学院では、現職教員院生の共通の取組として、毎週 1 回の教育実践研究の他に月 1 回院生、教員全員、現任校校長やメンター教員そして教育委員会指導主事の 4 者が協働して各院生の研究課題への取組のブラッシュアップを行って、ミドルリーダー育成に取り組んできたが、本シンポジウムにおいてそれを点検し・振り返ってより実効的なものにしていきたいと考えている。

教職大学院における ミドルリーダーの養成の在り方

日時 2015年11月3日(火) 13:00～16:30 (受付開始12:30～)
場所 岡山大学教育学部 講義棟1階5101講義室

「教育県おかやまの復活」の実現に向けて、岡山大学教職大学院は、教育委員会・学校と手をつなぎ、デマンドサイドのニーズに応じた取り組みを推進しています。熟年教員の退職、新採用教員の増加に伴い、学校や地域の教育改革・改善の推進役となるミドルリーダーを養成することが喫緊の課題となっています。また、教職大学院をより充実する方向性は、教育再生実行会議（第七次提言：2015）においても示されている通りです。

そこで、教育委員会・学校と大学はどのような仕組みをつくって教職大学院を活用したミドルリーダーを養成すればよいか、その在り方をこれまでの取り組みを事例に協議したいと思います。

県内外の教育行政機関、学校、大学教員はもちろん、学校改革・改善及びその職務の中核を担うべきミドルリーダー養成の在り方に関心のある教育関係者の皆様にも御参加頂きたく思っています。

プログラム

12:30～	受付	
13:00～13:10	開会の挨拶	
13:15～14:15	基調講演	「これからの教職大学院の在り方」 福井大学教職大学院 教授 松木 健一
14:15～14:30	休憩 (15分)	
14:30～15:30	シンポジウム	「学校・地域の教育改革の中核を担うミドルリーダーの在り方」
	コーディネーター	岡山県教育庁高校教育課 課長 竹田 義宣 岡山大学教職大学院 講師 金川 舞貴子
	報告者	岡山大学教職大学院 准教授 宮本 浩治 新見市立塩城小学校 校長 加藤 幸信 教諭 白根 雅弘 教諭 川上 裕加 岡山大学教職大学院 教授 高瀬 淳
15:30～15:45	休憩 (15分)	
15:45～16:15	指定討論	
	討論者	岡山県教育庁義務教育課 課長 中村 明雄 岡山市教育委員会 審議監(学校教育担当) 天野 和弘 福井大学教職大学院 教授 松木 健一
16:20～16:30	閉会の挨拶	

○参加申込み：不要

○参加費：無料

○その他：お車でご来場の場合、駐車料500円がかかります。

【問合せ】岡山大学教育学系事務部 教職情報サポート室 教職大学院担当 村上

Tel: 086-251-7635 fax: 086-251-7586 mail: yu-murakami@okayama-u.ac.jp

主催 岡山大学大学院教育学研究科

後援 岡山大学 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会 (申請中)

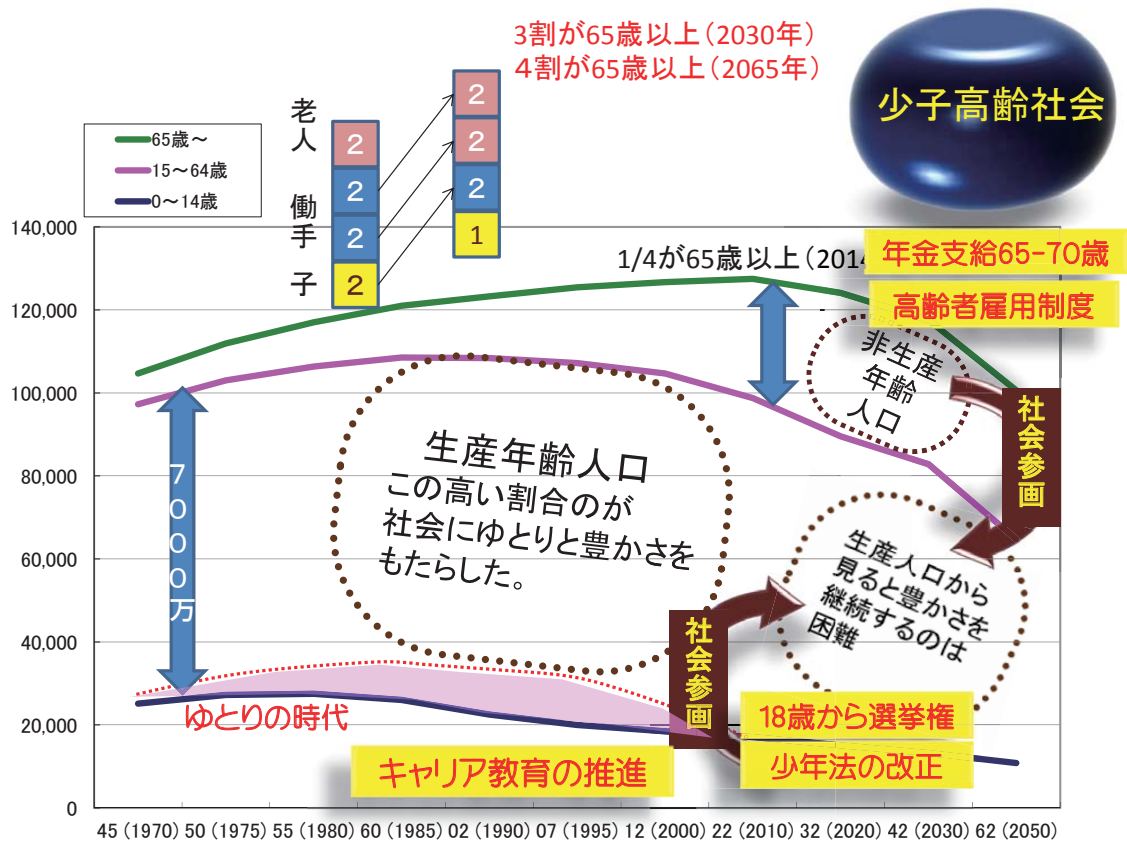
岡山大学教職大学院

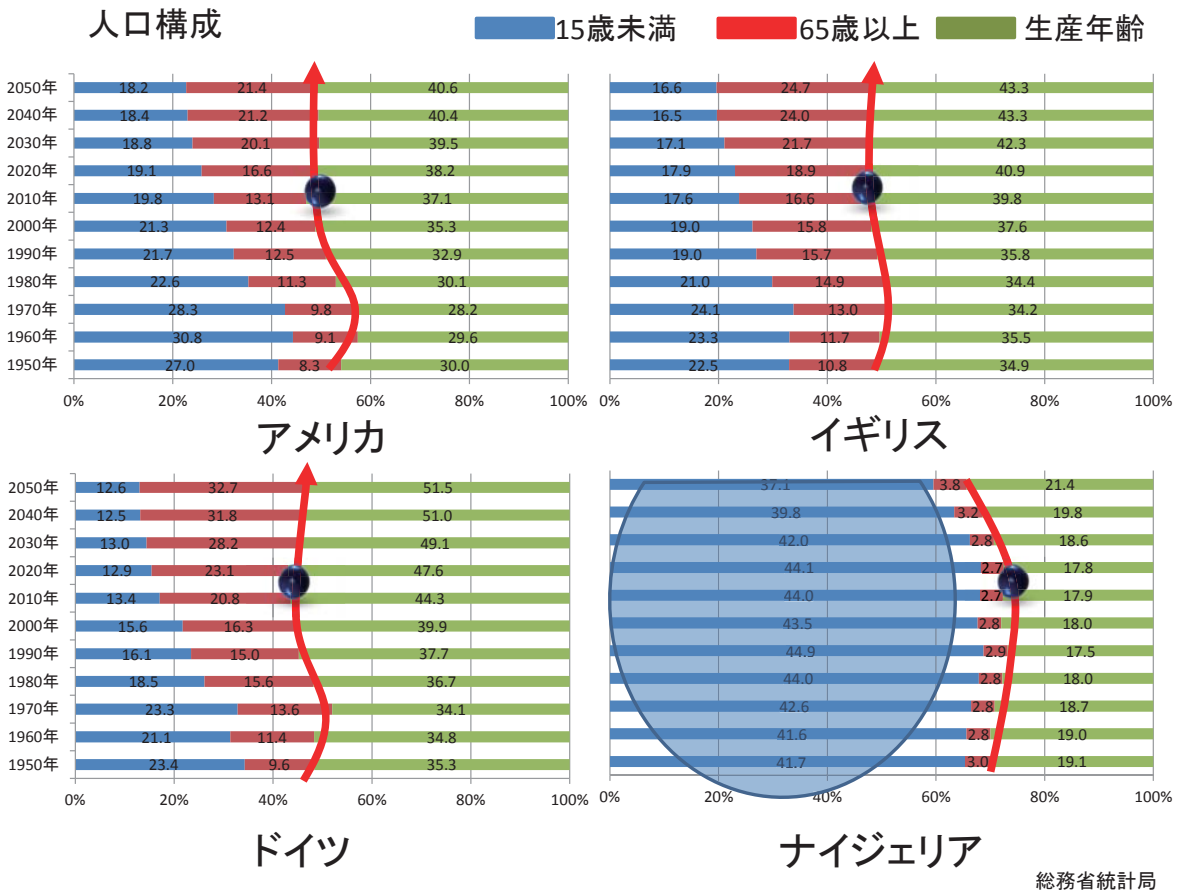
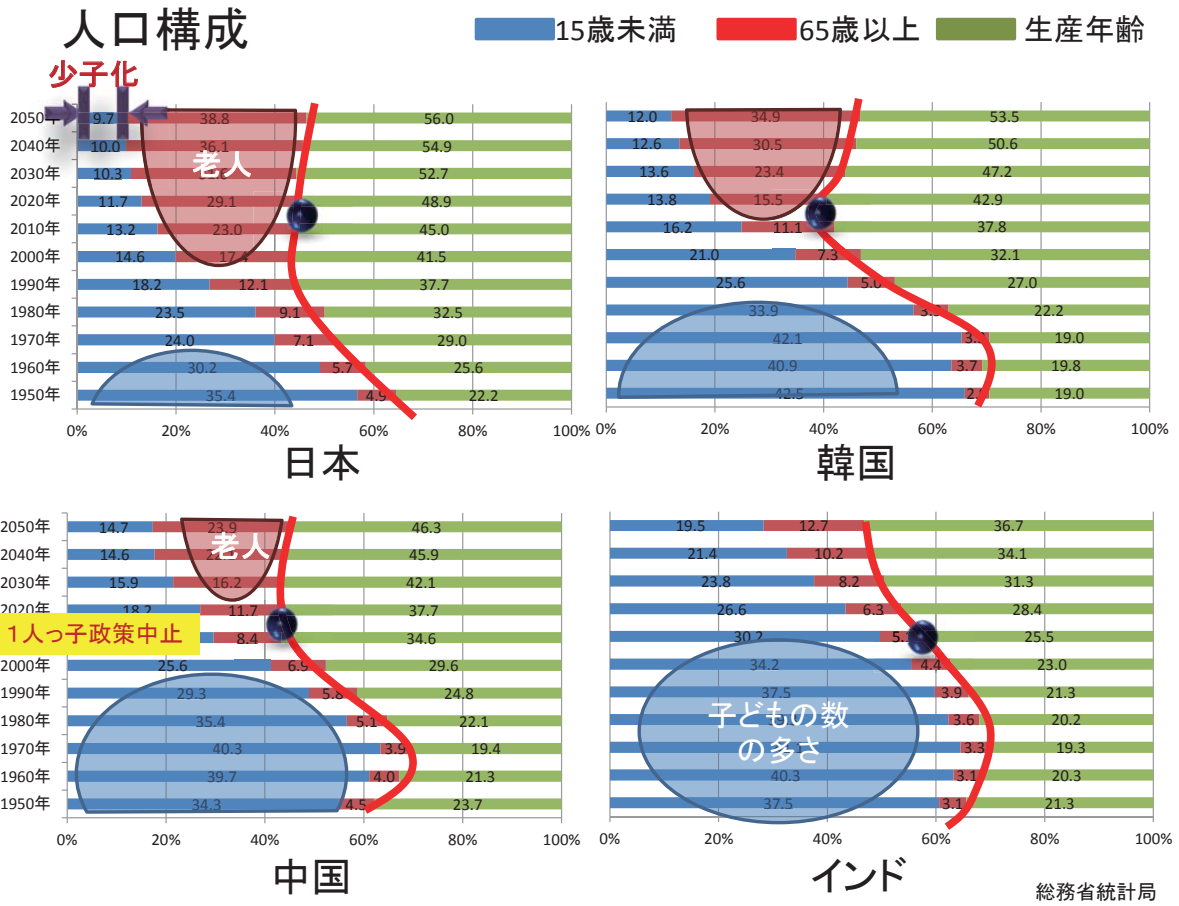
教育シンポジウム

これからの教職大学院の在り方

松木健一
福井大学教職大学院

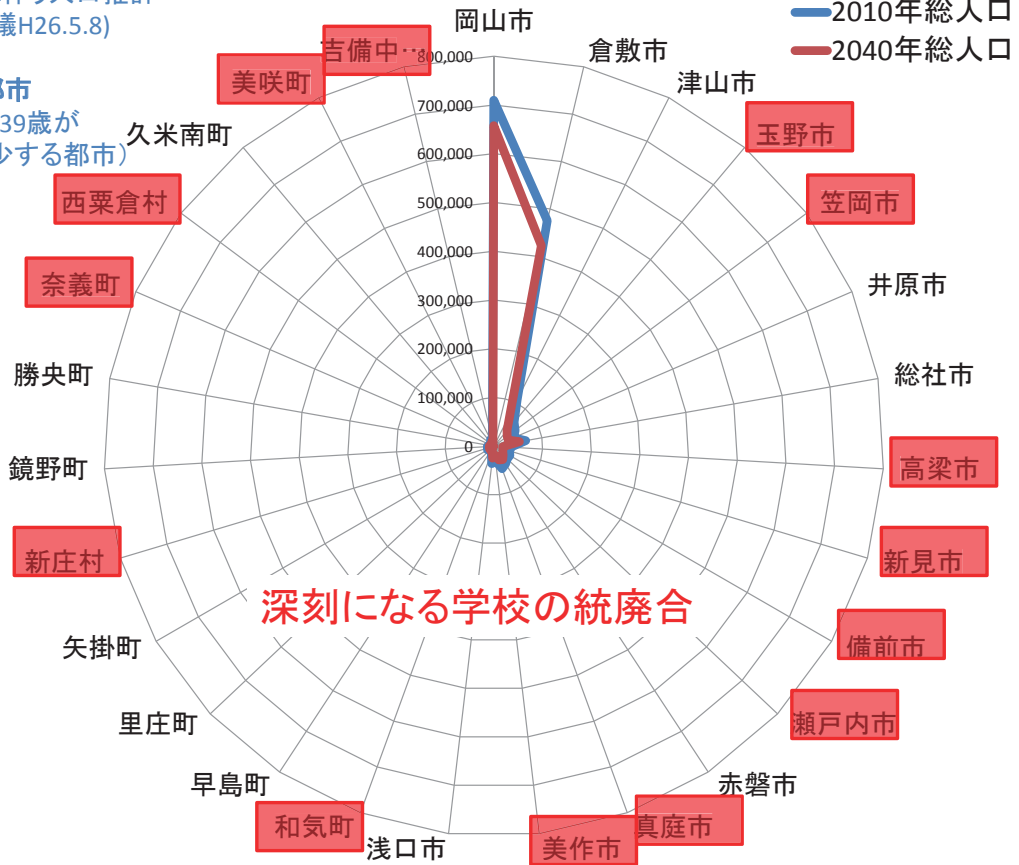
2015. 11. 3





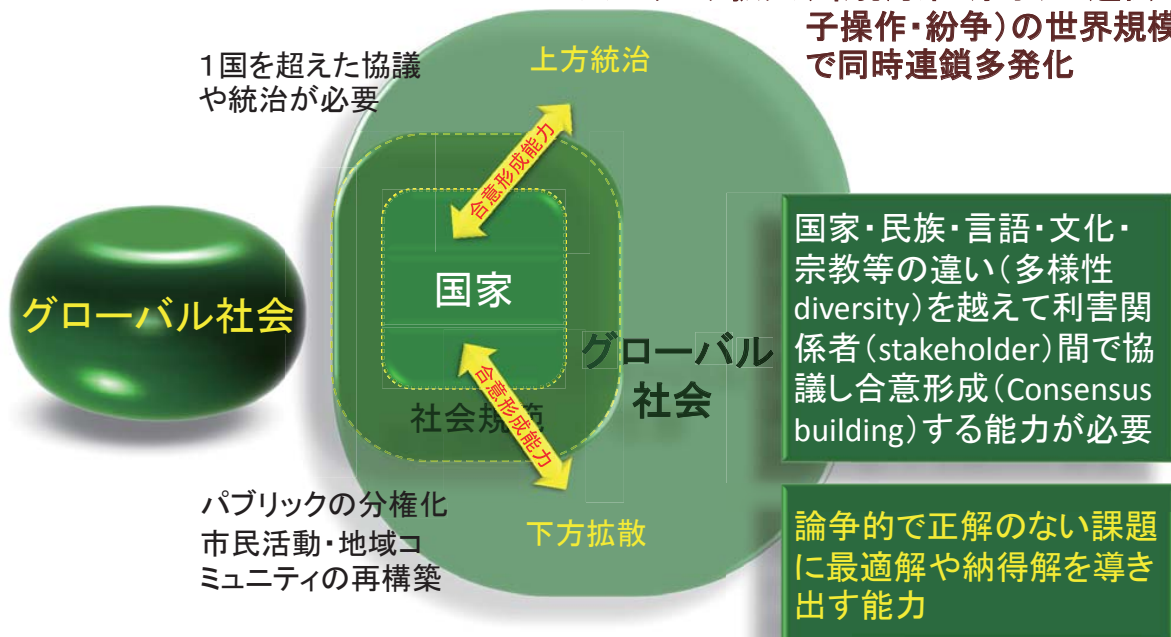
人口の流出に伴う人口推計
(日本創成会議H26.5.8)

消滅可能性都市
(若年女性20-39歳が
50%以上減少する都市)

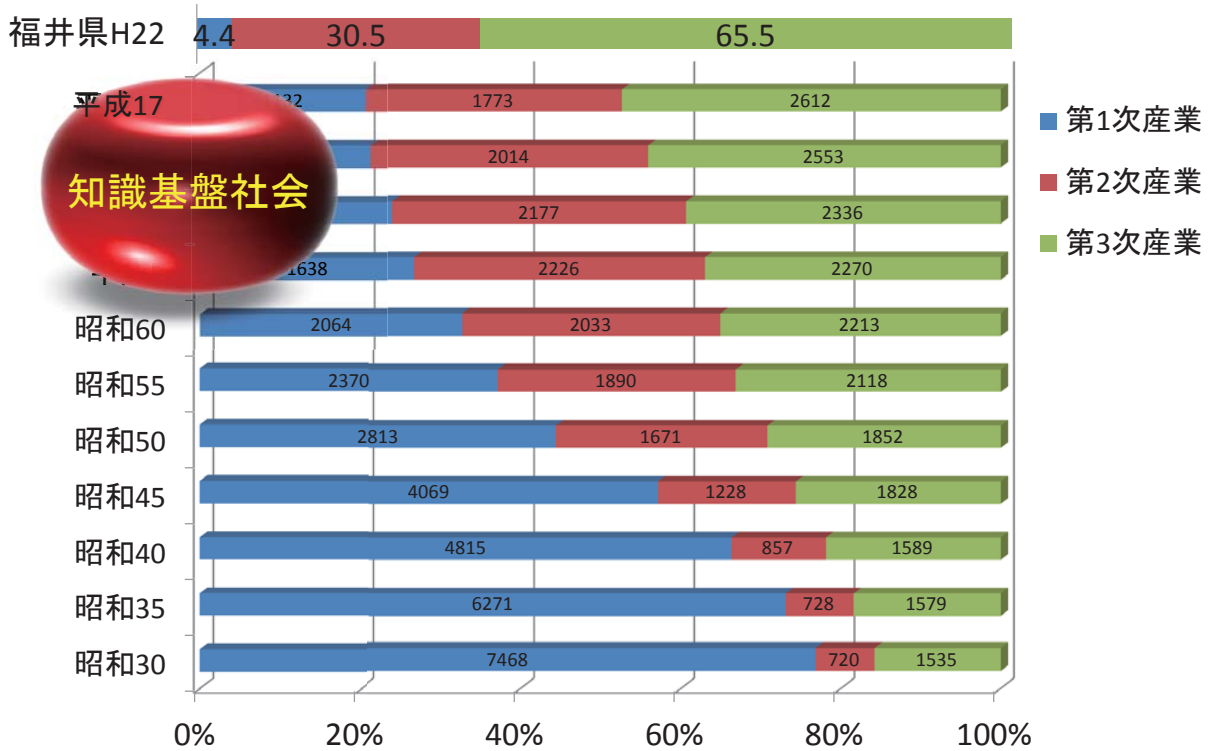


21世紀が求める学力

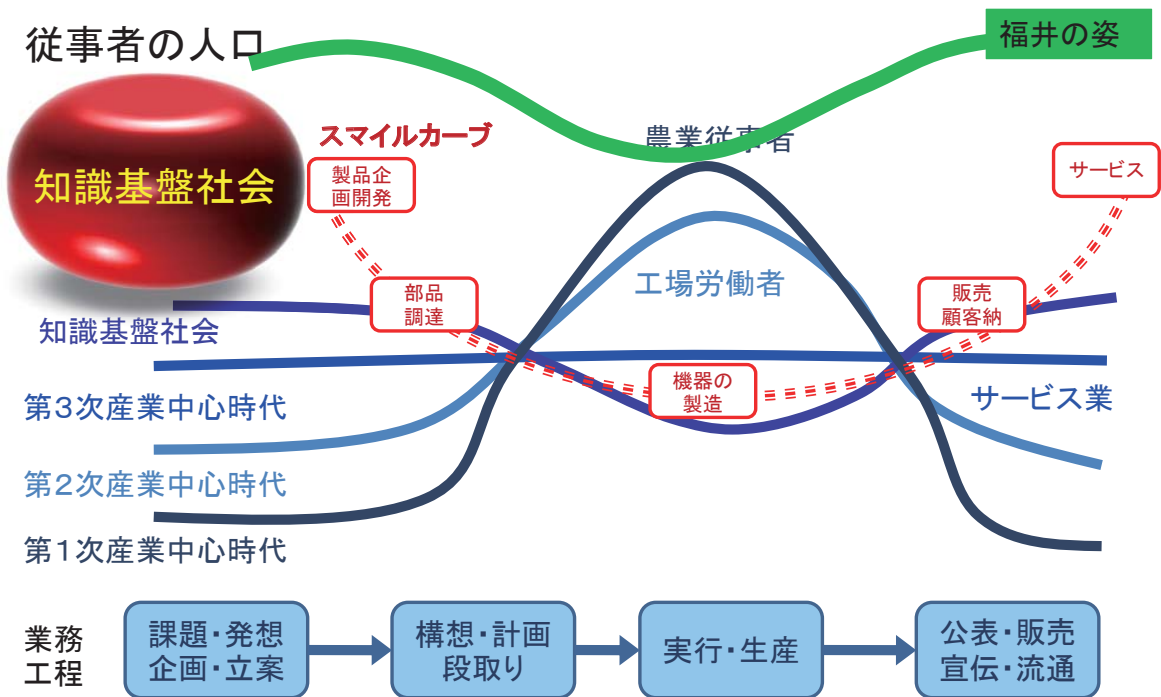
企業の多国籍化・インター補通信を含む流通
や人的交流の拡大⇒世界規模での供給
連鎖管理 (supply chain management)
自然リスク拡大(疫病・温暖化・自然災害)
人工リスク拡大(環境汚染・原子力・遺伝
子操作・紛争)の世界規模
で同時連鎖多発化

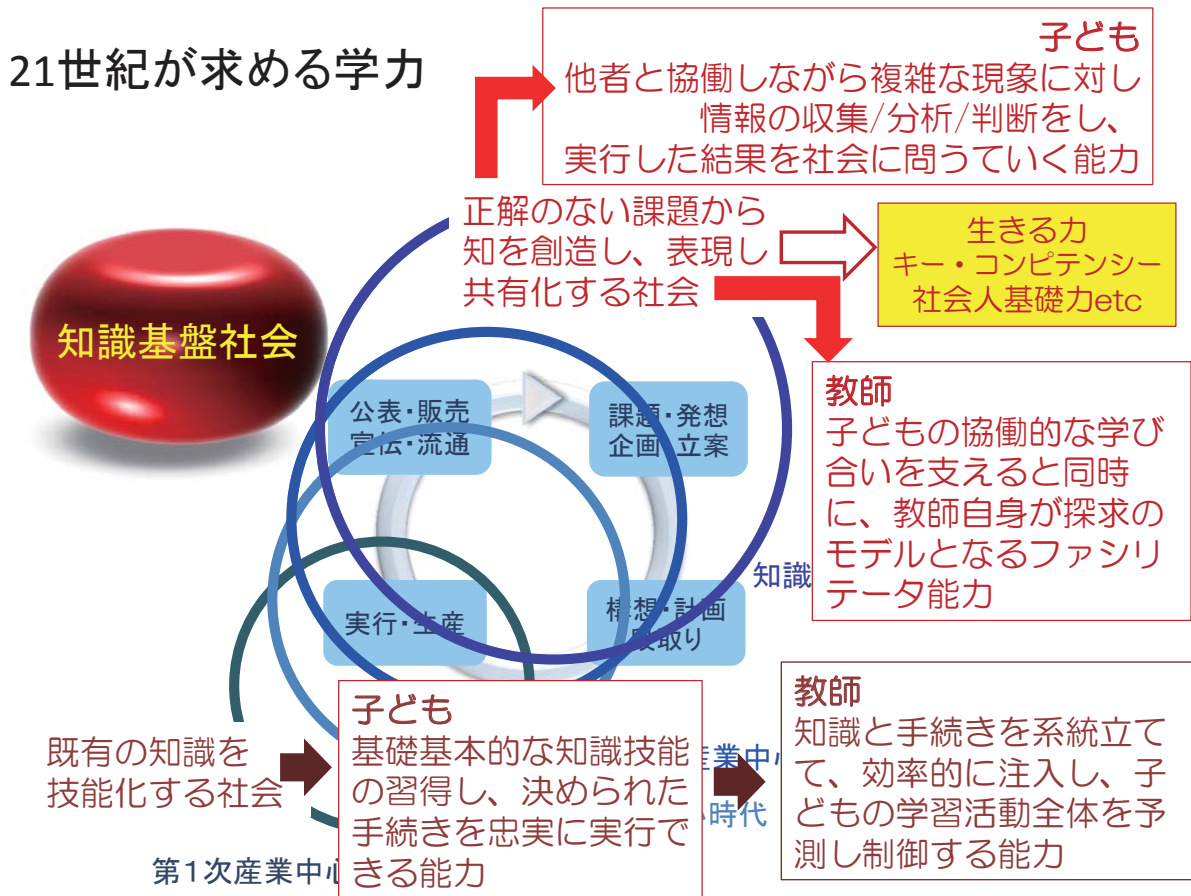


21世紀が求める学力

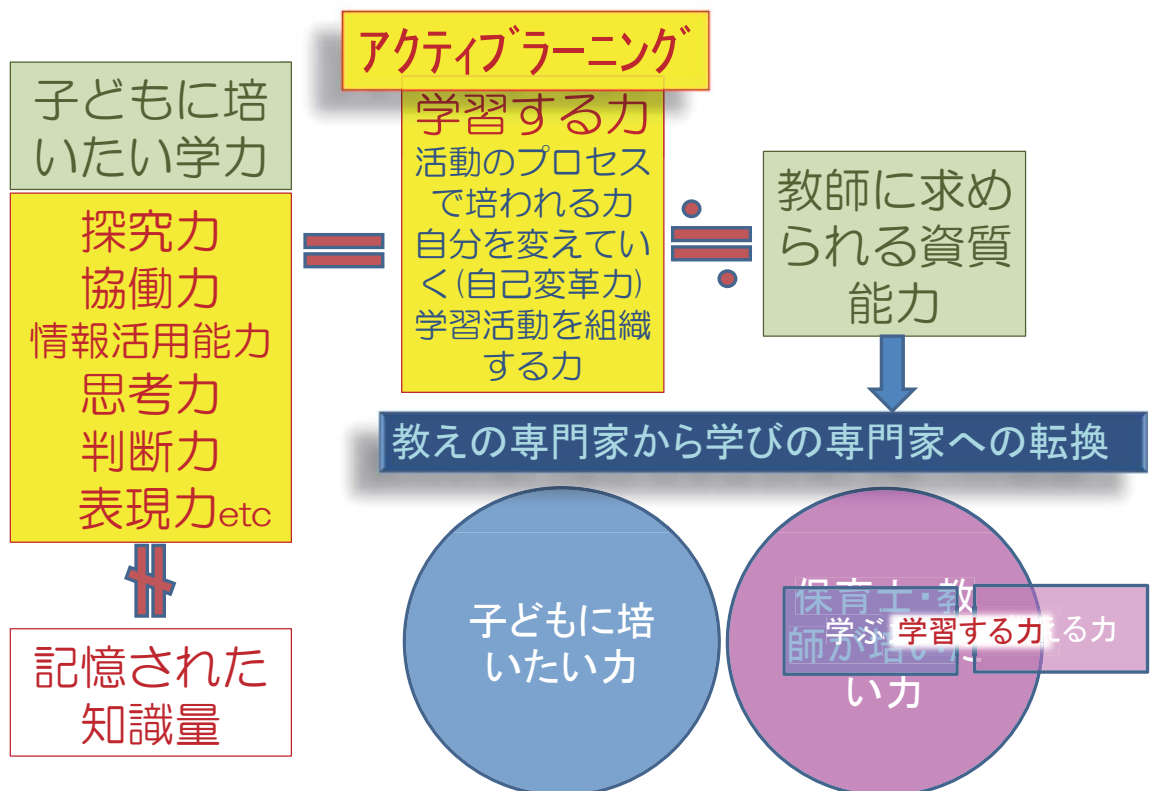


21世紀が求める学力

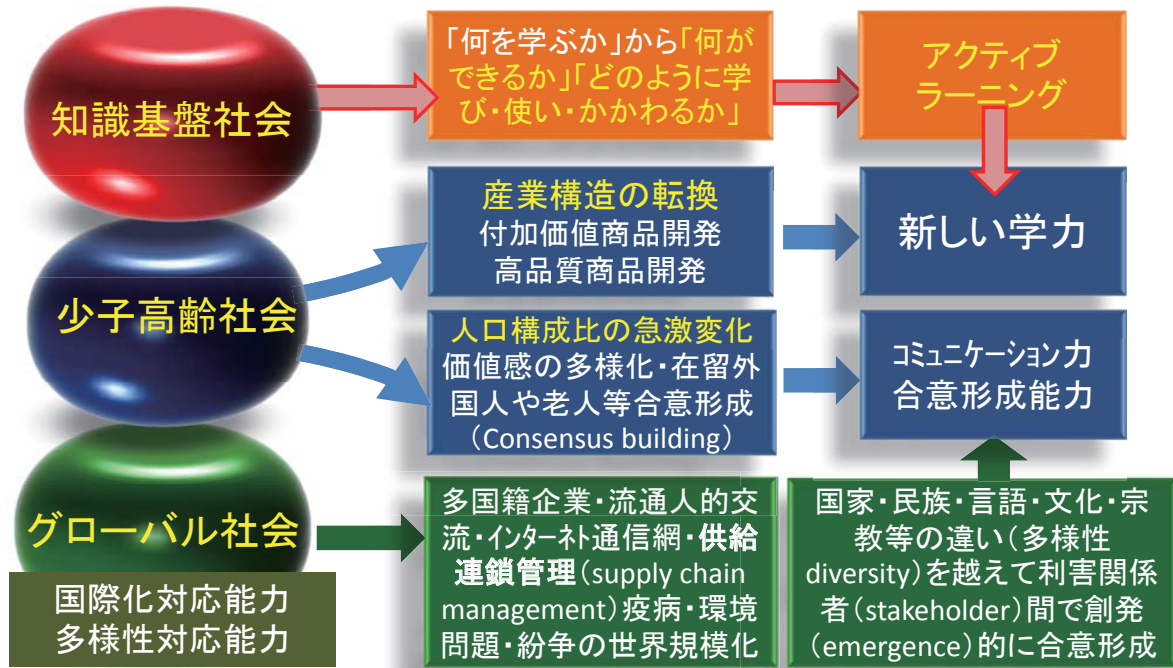




知識基盤社会に求められる教育



これからの教育 日本社会が置かれている現状



入学試験改革の概要

- 知識や技能のみ⇒「思考力・判断力・表現力」重視
- 全ての高校生に最低限の知識は身に着けさせる
- 英語は「読み聞き」+「話す書く」+国際的に有能な人材を育成
- 大学入試センター試験に変わる試験を導入
「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」
「高等学校基礎学力テスト(仮称)」
- 学習指導要領の改定と連動
- 大学側も入試に合わせアドミッション・ポリシー

	大学入試 センター試験	大学入学希望者 学力評価テスト	
時 期	2019年度まで H31まで	2020～2023年度 H32～35	2024年度以降 H36以降
受 験 者	現在の中2まで	現在の中1～小4	小3以下
方 式	マークシート	思考力を問う マークシート +短文記述式	CBT 出題・解答 +長文記述式
英 語	読む・聞く	聞く・話す・読む・ 書くを重視	民間と連携した テスト開発
出題範囲	現行の学習指導要領		時期学習指導要 領・新科目実施

アクティブ・ラーニング

「何を学んだ」から「どのように学んだか」への転換

これまでの教育

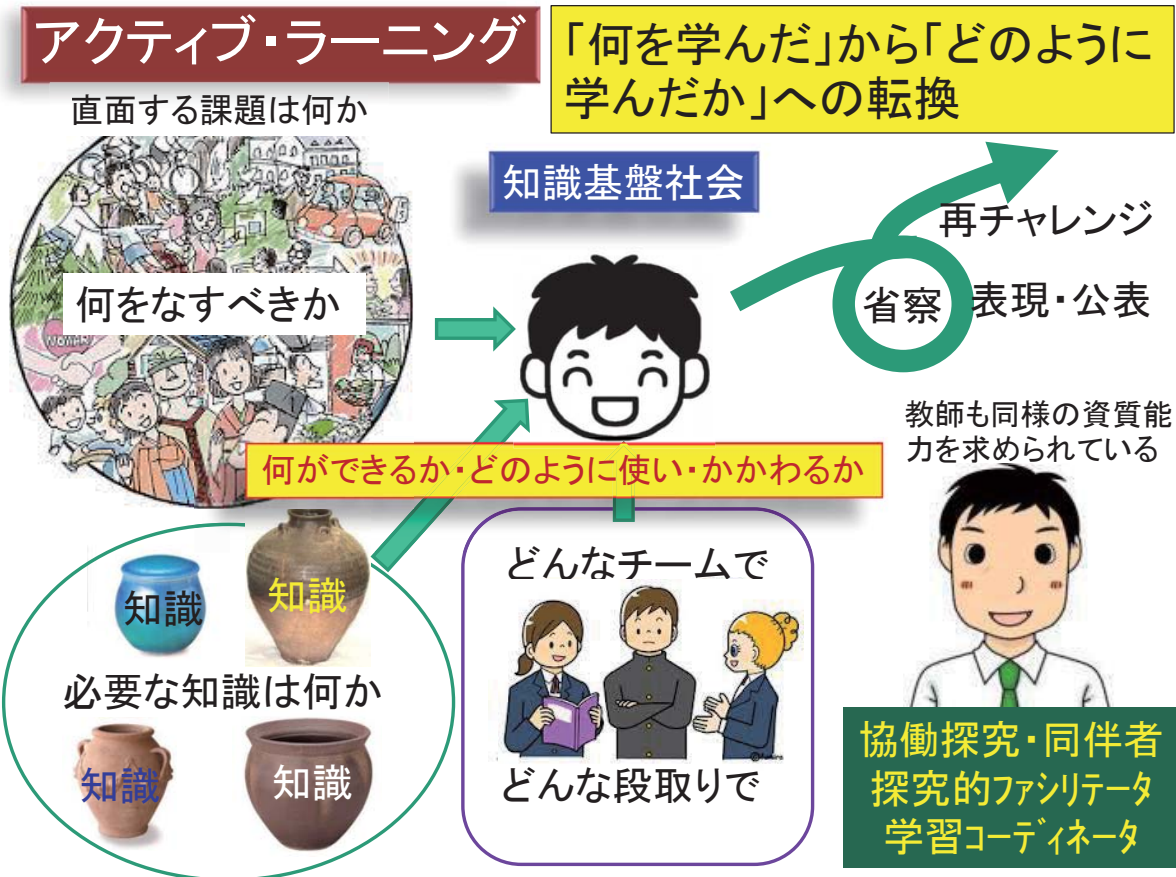


これまでの教師の求められる資質能力

- 教育内について知識の獲得
- 知識伝達のための方法・技術の習得
- 知識伝達のための子ども理解

これまでの子どもに求められる学力

- 知識の獲得
- (副産物)一方向的な情報伝達の仕方
- 双方向的なコミュニケーション力



アクティブ・ラーニング

中教審教育課程企画特別部会における
論点整理(2015. 8. 26)

子どもたちが「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関り、より良い人生を送るか」



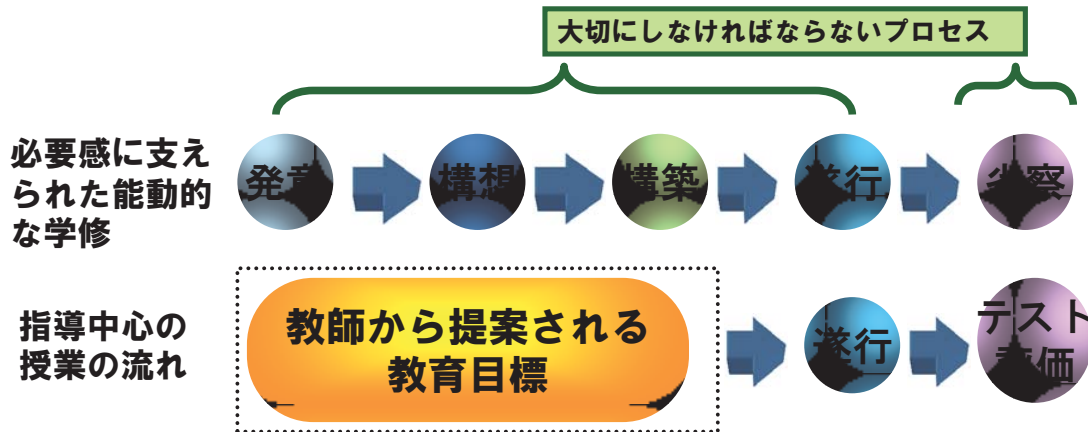
- 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程が実現できているか
- 子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びの過程が実現できているか



アクティブ・ラーニング

能動的な学修と 指導中心の学習の違い

- ① ○○したいな。(発意)
- ② ○○するには、どうしたらいいのかな。(構想)
- ③ こんな段取でやろう!(構築)
- ④ ○○をやるのは楽しいね。(遂行)
- ⑤ でも、何を工夫したら○○をもっと上手にできるのかな。(省察)

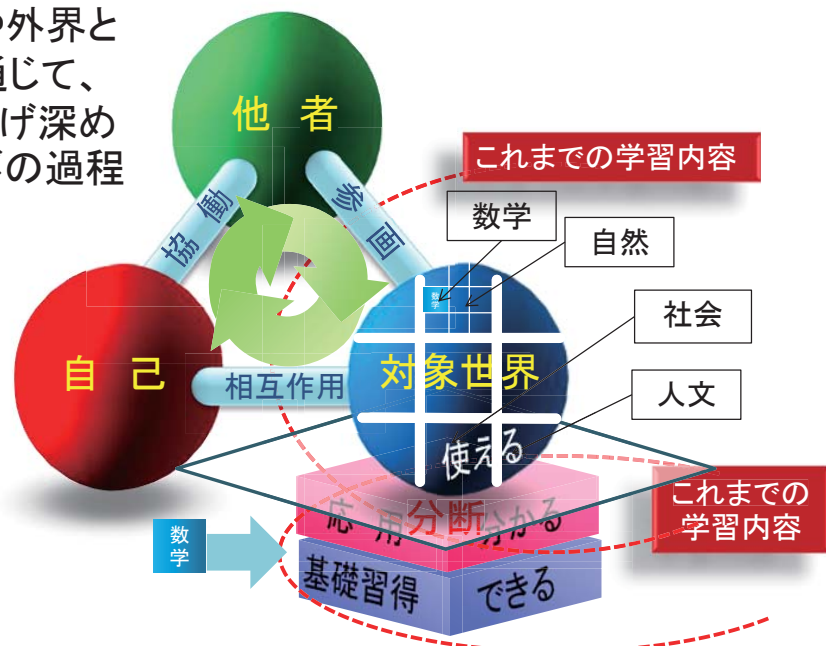


アクティブ・ラーニング

どのように学ぶか(Ⅱ)

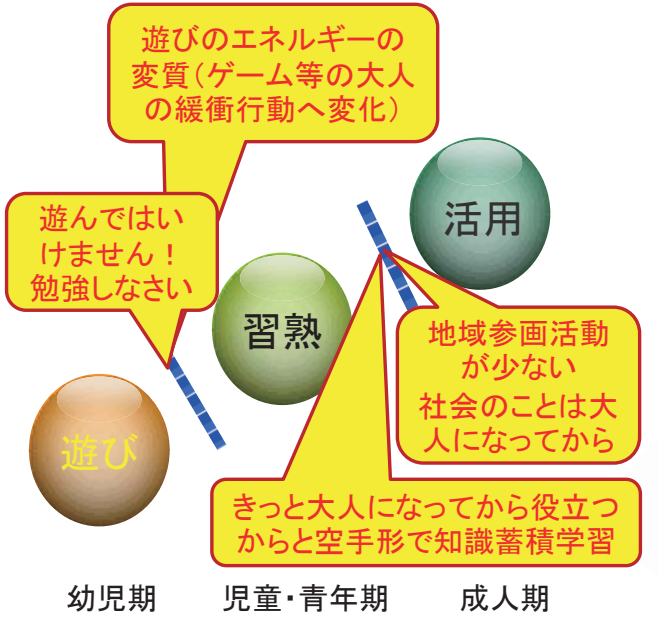
対象世界と自己と他者とを結びながら学ぶ

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程

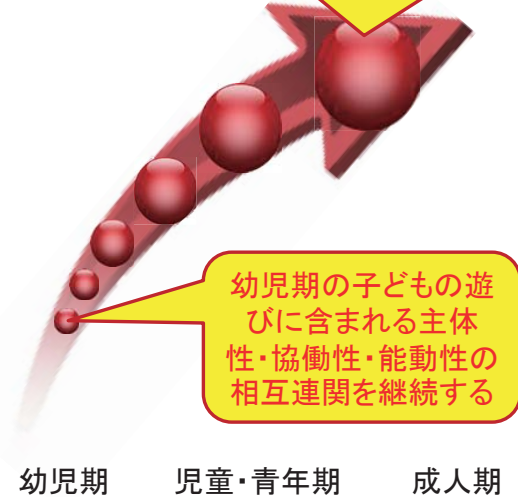


アクティブ・ラーニング どのように学ぶか(Ⅲ)

生涯にわたって連続して学ぶ



仕事の遂行には、幼児期の遊びに起源する主体性・協働性・能動性の相互連関が欠かせない。学校教育の中で、思考力・判断力・表現力が鍛えられることでよりシャープになる

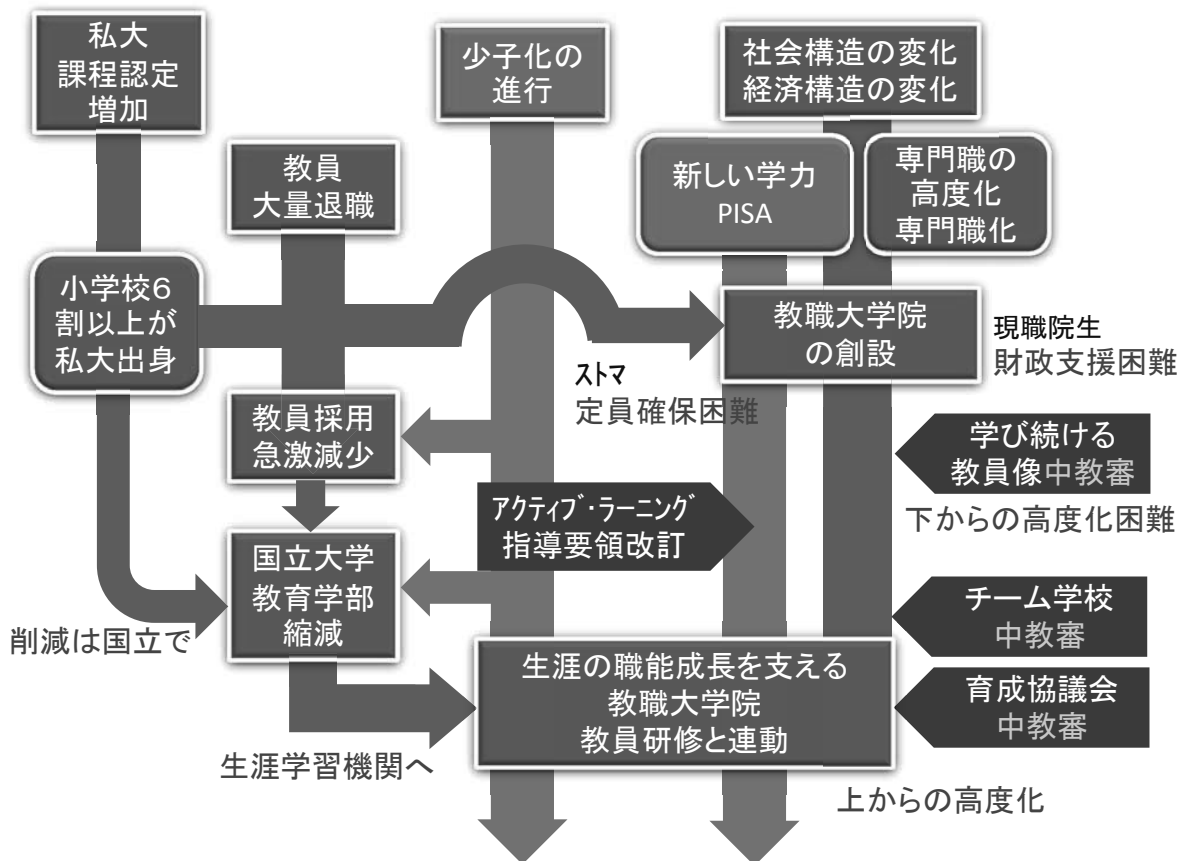
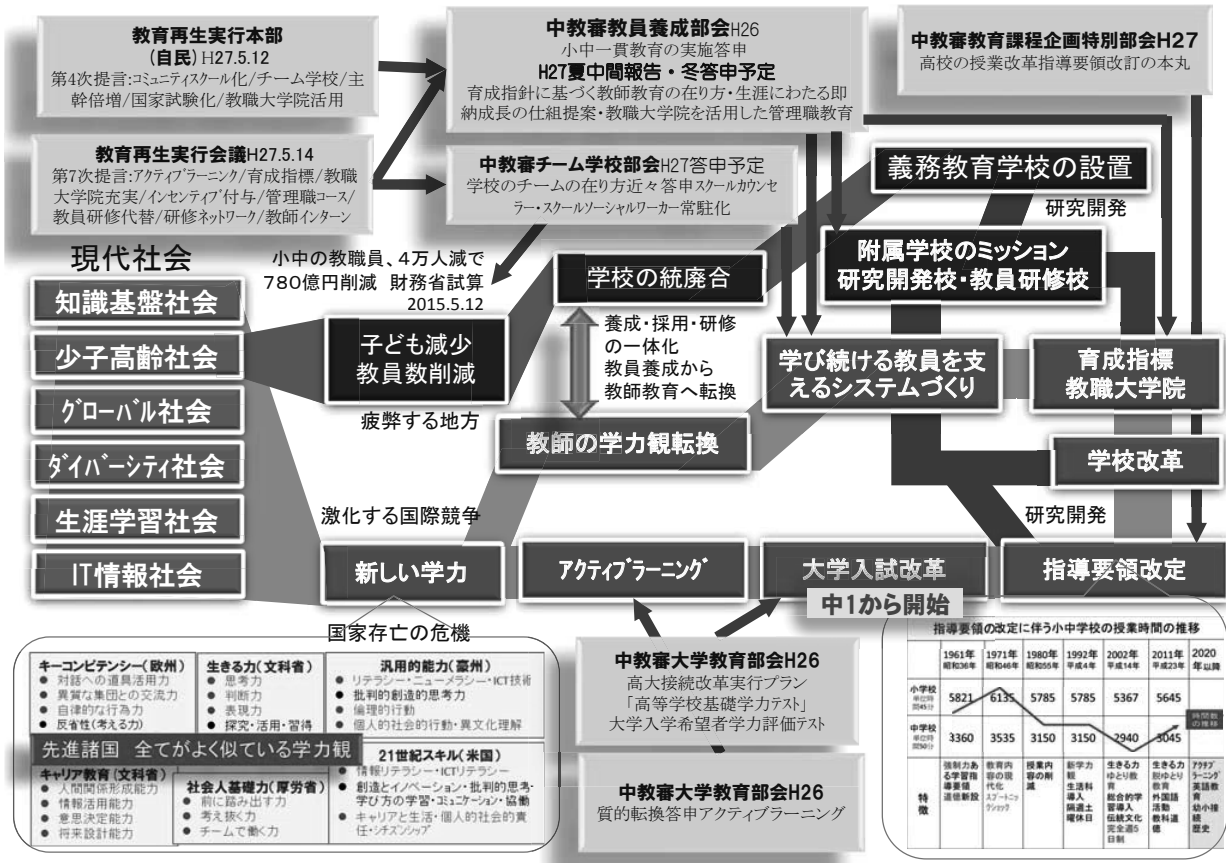


アクティブ・ラーニング

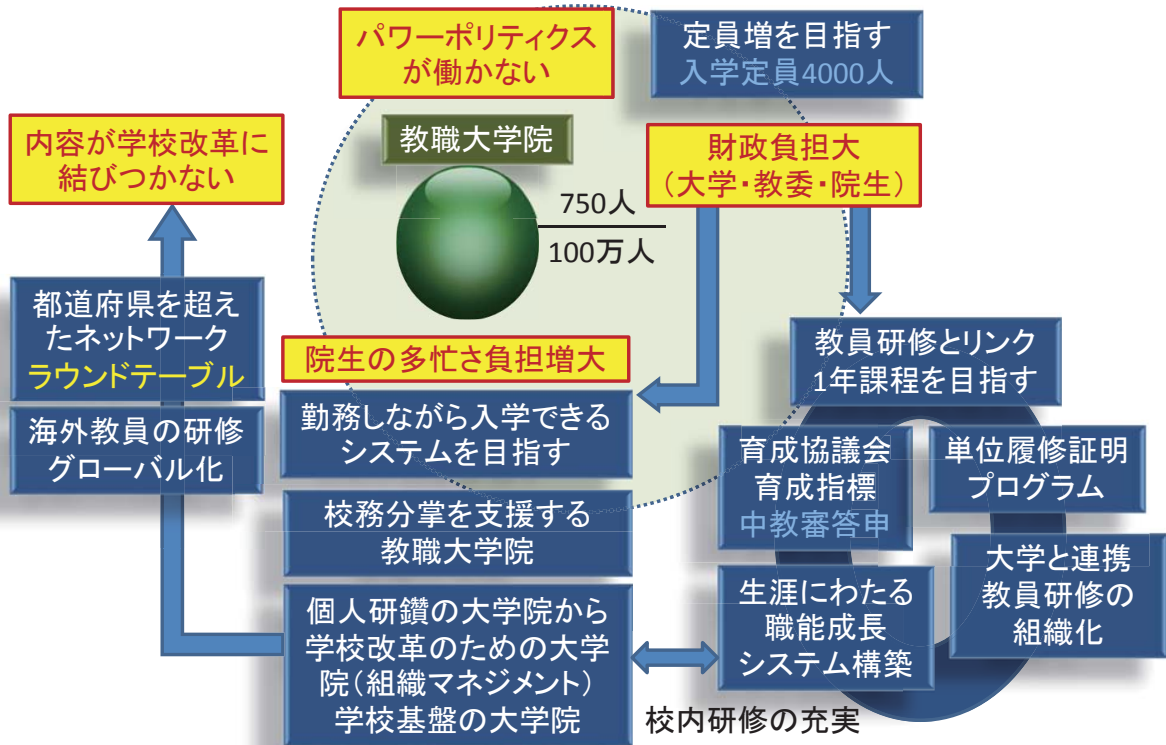
生涯にわたって連続する学び



教師教育改革の動向 2015.7



これからの教職大学院



地域に根ざした附属学園に変わります

